別紙様式1

将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名		兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。
提案プロジェクト名		あわじ環境未来島－国生みの島からの日本再生	※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。
対象地域	**都道府県名**	兵庫県	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。
	市町村名	洲本市、南あわじ市、淡路市	※複数の市町村にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※特定の地区を想定している場合は、それも合わせて記入してください。
① 関連する分野		環境 （低炭素、循環、生物多様性・生態系サービス） 超高齢化 （健康、福祉、医療、安全安心） その他 （雇用、人材育成、新産業創造、農水産業振興、文化、交流、ツーリズム）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。

② 将来ビジョン（環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標（2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿））

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

【時代背景・社会潮流】
東日本大震災の発生により、首都圏一極集中への不安（被害拡大リスク）、エネルギーへの不安（供給不足、コスト増嵩）、食料への不安（供給不足、Jブランド毀損）が顕在化した。近いうちに発生が確実視される東南海・南海地震が現実のものとなれば、これらの不安が一層拡大し、わが国全体が大混乱に陥ることが想定されることから、自立分散型の「エネルギー」「食と農」「暮らし」の基盤（地域）づくりを急ぐ必要がある。

【なぜ淡路島なのか～淡路島の現状～】
- 人口減少・超高齢化、雇用減少、後継者不足に直面
- 大震災以後も続く災害の脅威（南海地震30年で60%の確率）
- 日本的な風土、隣り合う市街地・農漁村・小規模集落
- 高いポテンシャル（豊富な日照・食料生産、未利用地）
- 大都市に隣接した「島」－成果の可視化・発信が容易

⇒ 「地方の縮図」の島から地域再生モデルを提示

【取組の方向】
1 自然と共生し、その恵みを生かす豊かさ
- 暮らしと産業の低炭素化、エネルギー自給の向上
- 省、創、蓄の3エネによる災害時自立化、域際収支改善

2 確かななりわいの豊かさ
- 食料自給率向上を通じた就業創出、担い手育成
- 地域内資源循環、域外需要対応による富の移入

3 人と人がつながる豊かさ
- 高齢化に対応した共助と健康づくり
- 次世代育成、移住受け入れ、シビックプライド継承

【地域資源・先行取組】
- 豊富な日照量、豊かな自然環境、変化に富んだ地形、世界有数の環境産業の立地、大規模未利用地の存在 → メガワットソーラー発電事業（淡路市）、大規模風力発電所(南あわじ市)、菜の花エコプロジェクト(洲本市)等
- 古来より「御食国」と称された高い食料生産ポテンシャル（温暖な気候、豊富な日照、豊かな海、三毛作の歴史） → 高い食糧自給率（カロリーベース110%、生産額ベース285%）、チャレンジファーム（パソナグループ）、3年トラフグ、牛丼プロジェクト等
- 大都市に隣接する立地、アジア、海外への好アクセス、スローライフ実現に最適な環境、国生み神話などの歴史・文化 → 新県立病院の整備、淡路島アートセンターやノマド村の活動、草の根の海外との交流、人形浄瑠璃継承の動き等

【基本目標】
国生みのちから宿る淡路島から、阪神・淡路大震災の経験を生かしつつ、島固有のリズムとその持続性を高める先端技術を融合させ、環境、経済、社会がバランスのとれた多自然地域ならではの成熟した豊かな地域の実現に向けて、人が安心して暮らし続けることのできる「持続する環境の島」を目指す。

1 エネルギーと食料を自給できる災害・リスクに強い島
エネルギーと食料の地産地消を進め、いざというときの自立が可能な島に／バイオマスをはじめ域内での物質循環と森・里・川・海の良好な水循環が確保された「循環する地域」を目指す。

2 環境と調和した経済活動が営まれ、生活の基本である「なりわい」が持続してある島
食料生産を核に地域の自然環境、生物多様性と調和した経済活動が営まれる島に／地域の強みを生かした「なりわい」が持続してある島に／国内外の人材が集まり、共通の夢の実現に向けて協働する地を目指す。

3 子どもから高齢者までが安心して充実した生活を送れる健康長寿の島
地域固有の暮らしのリズム、自然、歴史、文化に根ざしたゆとりある生活空間に／歩いて暮らせる、安心して暮らせる、長生きを楽しめる島に／人に精神的安らぎや癒しを与える「静養地」を目指す。

↓

以上の3つの基本目標の実現により、「地方の縮図」たる淡路島から、わが国が抱える社会的課題の解決策を示すとともに、物質的な豊かさから精神的な豊かさに軸足を移した地方活性化の成功モデルを描き出し、わが国全体の成長に貢献する。併せて、全世界に向けて持続可能な事例として発信していく。

【数値目標】
1　エネルギーの持続：自然エネルギーを地域特性に応じて総合的に活用し、エネルギーを自給する島にする。
（1）エネルギー自給率
　《06年推計値》4.2%　《2020年》20%　《2030年》検討中　《2050年》100%
（2）電力自給率
　《06年推計値》8.5%　《2020年》40%　《2030年》検討中　《2050年》100%
（3）温室効果ガス排出量（1990年比）
　《08年推計値》14.8%削減　《2020年》30%削減　《2030年》検討中　《2050年》80%削減
2　食と農の持続：古来より「御食国」と称された高い食料生産ポテンシャルを生かして、安全・安心な食料を内外に安定供給する島にする。
（1）食料自給率
　ア　カロリーベース
　　《2008年》110%　《2020年》110%以上を維持　《2030年》110%以上を維持　《2050年》110%以上を維持
　イ　生産額ベース
　　《2008年》285%　《2020年》305%以上を達成　《2030年》320%以上を達成　《2050年》350%以上を達成
（2）水自給率
　《2009年》75%　《2020年》80%　《2030年》90%　《2050年》100%
3　暮らしの持続：確かな「なりわい」を基礎に持続的成長を実現するとともに、安心生活の基盤を確立し、人が増える島にする。
　人口　《2010年》18万6千人（定住人口：14万4千人、交流人口：4万2千人）《2020年》20万人（定住人口：13万9千人、交流人口：6万1千人）《2030年》23万人（定住人口：14万6千人、交流人口：8万4千人）《2050年》30万人（定住人口：15万8千人、交流人口：14万2千人）

③　将来ビジョン（②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方）

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

【取組の概要】
「生活が多少不便になっても子孫によりよい地域を残したい」との思いから14万人島民が結束し、淡路独自の知恵・文化と先端技術を融合して、「持続する環境の島」を目指す新たな「国生み」に挑戦する。
1　エネルギーの持続
　資源制約の中で長期的に持続可能な地域であり続けるために、エネルギー自給率の向上と脱化石燃料の地域づくりを進めなければならない。その取組を雇用の創出や健康づくりなど暮らしの質を高める取組と結び付けて展開する必要がある。このため、豊富な日照を生かした太陽光発電やBDF生産など再生可能エネルギーの利用を進めるほか、移動手段のEV化・小型化、歩行者・自転車中心の街づくり、自然素材の家づくり等に取り組む。
2　食と農の持続
　世界人口の増加や気候変動に伴い、食料価格の高騰が進み、食料危機の到来が懸念される。「御食国」と称されながら、後継者難や活力低下が進む島の農水産業を、若者・企業等も呼び込み、新たな発想で活性化する必要がある。このため、遊休農地を活用した企業等の参入、新規就農者の養成、6次産業化を総合的に進め、農水産業を裾野の広い「食」産業として育成するとともに、里山・里海整備による地域循環の回復等で持続可能な生産基盤を整える。
3　暮らしの持続
　人口減少・高齢化に伴う疎住化、独居高齢者の増加に対応するため、安心して暮らし続けられる地域づくりを進める必要がある。この点は、今後大都市で急増する高齢者や良好な環境への住み替え希望者の受け皿づくりを進める上でも必須である。このため、誰もが年をとっても安心して暮らし続けられる地域づくりとして、保健・医療・福祉の連携やICTの活用等により、住民の健康維持・向上、活躍の場づくり、高齢者の見守りや生活支援の仕組みづくりなどを総合的に進める。

　上記1～3の共通要素～なりわいづくり・しごとづくり
　持続可能な地域社会の基本は「なりわい・しごと」である。淡路は年々進学・就職を契機に多くの若者が流出する島である。人が暮らし続けられる島であるために、若者が将来に希望を持てるような雇用の場を島内に創り出すことが必要である。このため、再生可能エネルギー利用を柱にした環境・エネルギー産業や裾野の広い「食」産業に加え、地域の強みである豊かな自然環境や食の魅力を生かした環境・健康ツーリズム産業の育成等により、持続可能な雇用を創出する。

【取組の重点化】
　上記の取組方向の3本柱のもとに、「地方の縮図」淡路島ならではの取組とするため、市街地、農漁村、小規模集落が隣り合う地域類型に応じた6つの重点地区を設定し、当面3カ年を目途に諸事業を展開する。
1　未来都市創造拠点モデル（淡路市南鵜崎地区等）
　淡路夢舞台、国営明石海峡公園、県立淡路島公園、花博跡地を一体的に活用したあわじ環境未来島の玄関口を整備する。
2　小規模集落モデル（淡路市生田・長澤地区）
　住民の移動手段の電動化や地域資源を生かした拠点づくりなどを通じて小規模集落を活性化する。
3　農村モデル（洲本市五色町）
　「エネルギーの持続」と「食と農の持続」の結び目となるバイオマス利用のショールームを目指す。
4　漁村モデル（南あわじ市沼島）
　地域特性を生かした小規模・自律分散型のエネルギー自給島（マイクログリッド・モデル）をつくる。
5　地方都市モデル（洲本市中心市街地等）
　温暖で自然豊かな環境を生かし「まちから島へ」をテーマに、人口減少・超高齢化に対応したまちづくりを推進する。
6　食・農人材育成モデル（淡路市野島地区、南あわじ市志知地区等）
　太陽の恵みから「富」を引き出す知恵・ノウハウを持つ食と農の人材育成を推進する。

【その他（全島展開を図る取組）】
・　太陽光・風力・潮流等の自然エネルギー活用に向けて実証研究、導入を進めるとともに、EV（PHVを含む。）の普及とそのための基盤となるEV充電設備の整備を推進する。
・　スローツーリズムの振興、廃校再生による地域ごとの特色ある拠点づくり、菜の花エコプロジェクト、丸ごと環境学習島化、自然環境（海浜等）と景観（古民家・街並み）再生、自然素材を生かしたエコハウスの開発（木・土・紙・石の家づくり）など、淡路島の地域特性やこれまでの活動を生かした取組を推進する。
・　島民一人ひとりをはじめ、島内の企業・団体など多様な主体があわじ環境未来島の実現に参画できる仕組みとして、「環境市民ファンド」の創設を目指す。
・　関西国際空港等の用地造成のための土砂採取跡地である大規模未利用地を活用し、当構想の趣旨に合致する拠点施設等を整備する。

【他地域との連携】
1　大都市圏との連携
　神戸市内中心部から車で30分の好立地条件を生かし、淡路島から京阪神等の大都市圏をはじめとする消費地へ良質な農水産物を供給する。
　一方で、大都市圏からは、農作業体験や農山漁村との交流などを通して「食」や「農」に親しみ、より人間らしい暮らしを送ろうとする「楽農生活」の実践の場として都市住民を受け入れるとともに、エコツーリズム、スローツーリズム、健康ツーリズムの場としても活用いただく。
2　海外先進地等との連携
　デンマークのサムソ島、ボーンホルム島などの自然エネルギー活用先進地及びインドネシア、フィリピン等の自然エネルギー未活用地と連携し、相互に技術供与、人材交流等を推進する。

④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業（技術・システム、サービス、仕組み等）

番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料（様式自由）として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を（　）内に記入してください。	価値、分野の種類	国の支援の必要性 ※必要性がある場合、「○」を記入してください。
Ⅰ　未来都市創造拠点モデル（淡路市南鵜崎地区等） 淡路夢舞台、国営明石海峡公園、県立淡路島公園、花博跡地を一体的に活用して「あわじ環境未来島」の玄関口を整備する。						
〈エネルギーの持続〉						
（1）	太陽光発電の推進	地域のエネルギー自給率を高めるため、太陽光発電によるエネルギー生産を推進 ①拠点地区内の施設を対象に初期コストを低減させる新しい民間主導スキームでの太陽光発電導入を推進 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）との連携 ②域内の事業所用太陽光発電システム整備を重点的に支援（県補助：補助率1/3　補助上限5,000千円） ③域内の住宅用太陽光発電システム整備を重点的に支援（淡路市補助：20千円/kW　補助上限80千円）	平成23～25年度	兵庫県、淡路市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○
〈食と農の持続〉						
（2）	食文化大学院構想の推進	日本食文化や食育への関心が高まる一方で、食料自給問題など農業や食産業のあり方などの食に関する社会的課題が山積する現状を踏まえ、日本の食文化を中心とした食の「知的体系」を確立するための「食文化大学院」の設置を検討	平成23～25年度	兵庫県、淡路市、企業等	経済的価値、雇用・人材育成・新産業創造・ツーリズム 社会的価値、健康・文化・交流	○
〈暮らしの持続〉						
（3）	淡路島国際公園都市（淡路市北部地区）の魅力向上	①地域の拠点病院（150床程度）を整備するとともに、神戸医療産業都市、県立粒子線医療センター、県立総合リハビリテーションセンター等と連携した長期滞在型の療養・健康回復・健康増進の拠点地区を整備 ②「海のシルクロード」プロジェクト（当該地区に「海のシルクロード」沿岸国の食・文化が楽しめる拠点を整備する構想）を核に、食と文化の融合による国際的な交流拠点を整備 ＊新たなミティゲーション制度のモデル検討（開発で減じた自然を別の場所の自然再生で補う米国の法制度。淡路島内や県内他地域の開発で失われる自然を島内のため池保全や海浜復元で補う制度の創設が考えられる。）	平成23～25年度	兵庫県、淡路市、企業等	経済的価値、雇用・人材育成・新産業創造・ツーリズム 社会的価値、健康・文化・交流 環境価値、生物多様性・生態系サービス	○
（4）	子どもが育つ島づくり	廃校を活用し、不登校や引きこもり等の生徒を受け入れる通信制の国際高等学校を整備 ＊運営主体となる事業者と事業内容を協議中。普通科に加え、英語教育に重点を置く国際科を設置。卒業生の海外留学を支援。	平成23～25年度	企業、淡路市、兵庫県等	社会的価値、福祉・文化・交流 経済的価値、人材育成・ツーリズム	○
Ⅱ　小規模集落モデル（淡路市生田・長澤地区） **住民の移動手段の電動化や地域資源を生かした拠点づくりなどを通じて小規模集落を活性化する。**						
〈エネルギーの持続〉						
（5）	太陽光発電の推進	地域のエネルギー自給率を高めるため、太陽光発電によるエネルギー生産を推進 ①拠点地区内の施設を対象に初期コストを低減させる新しい民間主導スキームでの太陽光発電導入を推進 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）との連携 →避難所に指定されている域内の学校・公民館等に自立運転機能付の太陽光発電システムを導入し、蓄電・充電も可能なエネルギー自立型防災拠点化を推進 ②域内の事業所用太陽光発電システム整備を重点的に支援（県補助：補助率1/3　補助上限5,000千円） ③域内の住宅用太陽光発電システム整備を重点的に支援（淡路市補助：20千円/kW　補助上限80千円）	平成23～25年度	兵庫県、淡路市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○
（6）	低炭素型交通システムの構築	持続可能な地域づくりの基礎となる低炭素型交通システムの構築に向けたモデル的な取組を実施 ①当該地区で住民が自主運行しているコミュニティバスの持続性・利便性を高めるため、車両のEV化を行うとともに、ICTを活用したデマンドシステムの導入を進め、過疎地域の持続可能な地域交通モデルを構築 ②学校・公民館の充電拠点化を推進（避難所に指定されている域内の学校・公民館に自立運転機能付の太陽光発電システムを導入し、蓄電・充電も可能なエネルギー自立型防災拠点化を推進）	平成23～25年度	兵庫県、淡路市	環境価値、低炭素 社会的価値、安全安心 経済的価値、ツーリズム	○
〈暮らしの持続〉						
（7）	ウォーキングミュージアム	歩いて巡ることのできる島づくりの第一歩として、国内最大級の鍛冶工房跡「垣内（ｶｲﾄ）遺跡」周辺の古道を「フットパス」として再生。歩行ルート、ルート上の事物・営み・遺構等を調査し、古民家再生による農家民宿・カフェや創作家のアトリエ・工房等の点在する拠点を結んで地図化を行う。 ＊NPO法人淡路島アートセンター、アーティストコミュニティ「ノマド村」を中心に事業企画を検討中	平成23～25年度	NPO、淡路市、兵庫県	社会的価値、健康・文化・交流 経済的価値、雇用・ツーリズム	○

Ⅲ　農村モデル（洲本市五色町） 「エネルギーの持続」と「食と農の持続」の結び目となるバイオマス利用のショールームを目指す。						
〈エネルギーの持続〉						
（8）	太陽光発電の推進	地域のエネルギー自給率を高めるため、太陽光発電によるエネルギー生産を推進 ①拠点地区内の施設を対象に初期コストを低減させる新しい民間主導スキームでの太陽光発電導入を推進 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）との連携 →避難所に指定されている域内の学校・公民館等に自立運転機能付の太陽光発電システムを導入し、蓄電・充電も可能なエネルギー自立型防災拠点化を推進（洲本市防災センター鳥飼会館で先行実施） ②域内の事業所用太陽光発電システム整備を重点的に支援（県補助：補助率1/3　補助上限5,000千円） ③域内の住宅用太陽光発電システム整備を重点的に支援（洲本市補助：20千円/kW　補助上限80千円）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○
（9）	低炭素型交通システムの構築	持続可能な地域づくりの基礎となる低炭素型交通システムの構築に向けたモデル的な取組を実施 ①域内の事業者を対象に電気自動車購入補助を重点的に実施 ②域内にEV充電設備を計画的に整備（ウェルネスパーク五色、洲本市五色庁舎等） ③ソフトバンクモバイル㈱の「ユビキタス電気」（携帯インフラを活用した簡易充電・課金システム）のモデル実施 ④公共交通空白地域の住民の足を確保するためデマンドバスの試験運行を実施（車両のEV化を検討）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、企業等	環境価値、低炭素 社会的価値、安全安心 経済的価値、ツーリズム	○
（10）	菜の花エコプロジェクトの推進	域内の遊休農地を活用して菜の花・ひまわりの栽培を行い、これを元に食用油の精製を行うとともに、廃食用油を回収してバイオディーゼル燃料（BDF）を精製し、農機・バス等の移動・運搬車両の動力源として活用 ＊当該地域では平成13年度から菜の花エコプロジェクト（菜の花の栽培と食用油精製、廃食用油回収とBDF精製）を行っており、年々規模が拡大。23年度は、さらに規模を拡大するとともに、BDF精製プラントの更新、新たな方式（酵素法）によるBDF精製プラントの整備を実施	平成23～25年度	洲本市、兵庫県、大学、企業等	環境価値、低炭素・循環 経済的価値、新産業創造	○
（11）	バイオマスの総合活用	①下水汚泥のエネルギー転換の実証プラントを整備（亜臨界水処理技術を用いたガス化による発電技術の検証） ＊NEDO資金により大阪府立大学がテストプラント稼動中。洲本市中心に地元WGで地域導入方策や効果を検討中 ＊家畜糞尿のエネルギー転換も合わせて検討 ②ドライ系バイオマスの利活用のあり方について検討（放置竹林対策と組み合わせた竹の活用を中心に道路脇剪定枝や建築廃材を原料としたBTL（バイオ液体燃料）化技術によるバイオメタノール精製プラント整備など） ③新たなバイオマス資源作物としてヤトロファの栽培試験を実施 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）と兵庫県立淡路景観園芸学校の連携	平成23～25年度	洲本市、兵庫県、大学、企業等	環境価値、低炭素・循環 経済的価値、新産業創造	○
〈食と農の持続〉						
（12）	e-案山子プロジェクト	人口減少・超高齢化に直面する農村においてICTを活用して農業生産の効率性を向上 ①圃場の遠隔管理を行うため、ソフトバンクモバイル㈱がJA・農家と連携して農業用多機能センサー「e-案山子」の導入試験を複数箇所で実施 ＊JA・農家・猟友会等を対象にe-案山子実演説明会を開催済（H22.12）。JAが導入試験を行う圃場を複数選定中 ②シカ・イノシシの農業被害を抑制するため、ソフトバンクモバイル㈱と県森林動物研究センターの連携でわなのモニター及び遠隔操作システムの設置試験を実施（2箇所）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、企業等	経済的価値、農水産業振興・新産業創造 環境価値、生物多様性・生態系サービス	○
（13）	農業生産の創エネ・省エネ	再生可能エネルギーを農業生産のプロセスに取り込み、環境と調和し、競争力の高い農業モデルを構築 ①JA淡路日の出が農業倉庫へのヒートポンプ導入、米穀用と玉葱用の冷蔵倉庫の集約化・省エネ改修を実施 ②JA・農家と連携して農機の電動化の実証研究を実施し、エネルギーの地産地消を推進	平成23～25年度	農協、洲本市等	環境価値、低炭素・循環	○
Ⅳ　漁村モデル（南あわじ市沼島） 地域特性を生かした小規模・自律分散型のエネルギー自給島（マイクログリッド・モデル）をつくる。						
〈エネルギーの持続〉						
（14）	太陽光発電の推進	地域のエネルギー自給率を高めるため、太陽光発電によるエネルギー生産を推進 ①拠点地区内の施設を対象に初期コストを低減させる新しい民間主導スキームでの太陽光発電導入を推進 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）との連携 →避難所に指定されている域内の学校・公民館等に自立運転機能付の太陽光発電システムを導入し、蓄電・充電も可能なエネルギー自立型防災拠点化を推進 ②域内の事業所用太陽光発電システム整備を重点的に支援（県補助：補助率1/3　補助上限5,000千円）	平成23～25年度	兵庫県、南あわじ市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○
（15）	エネルギー自給島プロジェクト	太陽光発電を中心に蓄電・配電の仕組みを組み合わせたエネルギー地産地消の小地域モデルを構築 ①太陽光で発電した電気を蓄電し、ハイブリッド船、電動カート等に充電（可搬式電池の導入を検討）し、域内で使用する新しい形の配電社会モデルの実証実験を実施 ②関西電力と大阪市立大学の連携により漁船の電動化（ハイブリッド化）の実証実験を実施 ③住民・来島者の利便性向上に資する小型EV車両、電動カート等を導入	平成23～25年度	兵庫県、南あわじ市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○

〈暮らしの持続〉						
（16）	環境学習・エコツーリズムの拠点化	①地域におけるエネルギー自給の取組を基礎に環境学習プログラムを構築 小学生を対象とした2泊3日の環境学習プログラムの開発・実施（太陽光発電実験、風力発電実験、BDF精製実験、ハイブリッド漁船体験、漁業体験、うちエコキッズ（CO2排出量計測ソフト）体験、島巡り（船及び歩行）、夜間散策、キャンプ等を組み合わせたモデルプログラムを開発）	平成23～25年度	兵庫県、南あわじ市、NPO等	環境価値、低炭素・循環 経済的価値、人材育成・ツーリズム 社会的価値、文化・交流	○
Ⅴ　地方都市モデル（洲本市中心市街地等） 温暖で自然豊かな環境を生かし「まちから島へ」をテーマに、人口減少・超高齢化に対応したまちづくりを推進する。						
〈エネルギーの持続〉						
（17）	太陽光発電の推進	地域のエネルギー自給率を高めるため、太陽光発電によるエネルギー生産を推進 ①拠点地区内の施設を対象に初期コストを低減させる新しい民間主導スキームでの太陽光発電導入を推進 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）との連携 →避難所に指定されている域内の学校・公民館等に自立運転機能付の太陽光発電システムを導入し、蓄電・充電も可能なエネルギー自立型防災拠点化を推進 ②域内の事業所用太陽光発電システム整備を重点的に支援（県補助：補助率1/3　補助上限5,000千円） ③域内の住宅用太陽光発電システム整備を重点的に支援（洲本市補助：20千円/kW　補助上限80千円）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○
（18）	低炭素型交通システムの構築	持続可能な地域づくりの基礎となる低炭素型交通システムの構築に向けたモデル的な取組を実施 ①域内の事業者（タクシー、レンタカー、運送業、観光業等）を対象に電気自動車購入補助を重点的に実施 ②域内にEV充電設備を計画的に整備（県洲本総合庁舎、洲本市役所等） ③ソフトバンクモバイル㈱の「ユビキタス電気」（携帯インフラを活用した簡易充電・課金システム）のモデル実施 ④中心市街地と郊外集落を結ぶコミュニティバス（自動車教習所が送迎バスを活用して運行）のEV化を実施 ⑤地区住民の協力を得てカーシェアリングの仕組みづくりに取り組む。	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、企業等	環境価値、低炭素 社会的価値、安全安心 経済的価値、ツーリズム	○
〈暮らしの持続〉						
（19）	健康・福祉の拠点づくり	①医療技術の高度化に対応し、快適な療養環境を確保するため、圏域の中核的病院である「県立淡路病院」の建替整備を推進（救急医療を含む専門的な急性期医療や専門的ながん医療の提供）＊H25供用開始予定 ②新県立病院周辺の利便施設のユニバーサル化や、徒歩・自転車で安心して移動できるバリアフリーの道路環境等を整備 ③H25移転予定の県立淡路病院跡地を在宅福祉や子育ての地域拠点にするための基本構想を作成	平成23～25年度	兵庫県、洲本市等	社会的価値、健康・福祉・医療・安全安心	○
（20）	高齢者の生活支援のしかけづくり	①洲本市とソフトバンクモバイル㈱が連携し、ICTを活用した独居高齢者見守りのモデル構築を推進 ＊洲本市（企画情報部、健康福祉部、地域包括支援センター）、ソフトバンクモバイル、地元民生委員の間で協議しながら事業企画を検討中	平成23～25年度	ソフトバンクモバイル㈱、洲本市、兵庫県等	社会的価値、健康・福祉・医療・安全安心	○
（21）	安全で安心して暮らせる島づくり	①安全安心の島づくりに向けて、地域医療を住民自ら守り育てる意識啓発を行うとともに、防災意識向上に向けて津波防災ステーション完成一周年記念フェスタを開催 ②健康長寿の島づくりに係る島民意見を集約するため、健康長寿島民フォーラムを開催 ＊「いきいき百歳体操」を地域展開し、元気な高齢者が虚弱な高齢者を支える住民主体の地域づくりを実践中	平成23～25年度	兵庫県、洲本市等	社会的価値、健康・福祉・医療・安全安心	
（22）	スローツーリズムの拠点づくり	①淡路島観光協会と連携して「スローツーリズムの島」を発信。洲本温泉街のホテル・旅館等と連携して食の魅力を生かした滞在型・体験型のツアープランを提供 ②海洋ツーリズムを推進するため、洲本港でプレジャーボート受け入れのためのビジターバースの設計に着手 ＊あわじ交流のみなとづくりとして、モデル港を選定しプレジャーボートのビジター寄港を推進	平成23～25年度	兵庫県、洲本市等	社会的価値、健康・福祉・医療・安全安心	
Ⅵ　食・農人材育成拠点モデル（淡路市野島地区・南あわじ市志知地区等） 太陽の恵みから「富」を引き出す知恵・ノウハウを持つ食と農の人材育成を推進する。						
〈食と農の持続：淡路市野島地区〉						
（23）	食・農人材育成拠点の形成	①㈱パソナグループが運営する食・農人材育成拠点を現行23名から200人規模に拡大（新卒未就職者等を対象に農業研修等を実施）《県ふるさと雇用再生基金》 ＊学卒未就職者を主な対象にパソナが人材募集中。農地・寮の確保、指導体制等について県・淡路市で支援中 ＊当該地区に立地する兵庫県立淡路景観園芸学校（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科）と連携し、将来的にはアジア・世界の若者が集う研修・交流拠点に拡充 ②大規模な定住型クラインガルテンの整備に向けて計画検討、地元調整等を実施	平成23～25年度	㈱パソナグループ、兵庫県、淡路市等	経済的価値、雇用・人材育成・農水産業振興	○
（24）	薬用植物プロジェクト	①廃校を活用して環境調和型の植物工場を整備し、高品質な薬用植物の“最適化”栽培技術を開発 ＊代表機関：神戸大学（農・医・工）　参画機関：大阪大学、㈱パソナグループ、新産業創造研究機構、県	平成23～25年度	神戸大学、大阪大学、㈱パソナグループ、兵庫県等	経済的価値、新産業創造・人材育成・農水産業振興 環境価値、低炭素	○

〈食と農の持続：南あわじ市志知地区〉						
（25）	農水産業の学習拠点整備検討	①廃校（県立志知高校）を活用し、農水産業の経営手法、6次産業化等を生産者と共に学習・実践する場の整備を検討 ＊南あわじ市、地元住民、有識者で方向性を検討中。ソーシャルファームとも連携の方向	平成23～25年度	南あわじ市、企業等	経済的価値、雇用・人材育成・農水産業振興	○
（26）	食の拠点施設の整備検討	①まるごと淡路島食の拠点施設（魚・野菜等の大規模直売所、地産地消レストラン、体験農園、加工施設、交流広場等）整備に向けてコンセプト、運営手法等を協議会で検討し、基本構想を作成 ＊JA、漁協、商工会、淡路島観光協会、南あわじ市等の関係団体の会議で協議会の設置について基本合意。食ビジネスの展開を考える「食のシンポジウム」を開催済（H23.2.20）	平成23～25年度	兵庫県、南あわじ市、農協、漁協、食関連事業者等	経済的価値、農水産業振興・雇用・人材育成・ツーリズム 社会的価値、交流	○
（27）	ソーシャルファームの推進	①南あわじ市において空き家・遊休農地を活用したモデル・ソーシャルファームを創設 ＊南あわじ市活性化委員会を中心に、地元高校、福祉施設等と連携して実施方法を検討中	平成23～25年度	南あわじ市、兵庫県等	社会的価値、福祉 経済的価値、雇用・人材育成	○
Ⅶ　その他（全島展開を図る取組）						
〈エネルギーの持続〉						
（28）	CO2の削減に向けた島民運動の推進	①うちエコ診断、事業所省エネ診断によるCO2排出の「見える化」の推進 ＊普及促進のため、WEBによる簡易版「うちエコ診断」システムを開発し、運用開始（H22） ②あわじ全島ゴミゼロ作戦、全島一斉清掃、海岸漂着ごみクリーンアップ作戦、あわじエコライフスタイル運動、環境未来島エコキッズの育成等による「あわじ環境未来島」島民率先行動の推進 ＊平成23年3月12日「環境立島淡路」島民会議総会において、「あわじ環境未来島構想」の実現に向けて島民主体に「あわじエコライフスタイル」の実践に取り組むとして、「淡路島環境コミュニティ宣言」が採択された。 ③あわじ環境未来島構想におけるCO2削減効果を検証し、GIS等を活用して「見える化」 ＊センサー技術等も活用し、応答性の高い取組効果検証の仕組みを構築し、PDCAサイクルで取組の質を向上 ④CO2排出削減効果をエコ地域ポイントとして還元し、取組のインセンティブとして付与する制度の創設を検討	平成23～25年度	ひょうご環境創造協会、兵庫県、企業、金融機関等	環境価値、低炭素 社会的価値、文化	
（29）	菜の花エコプロジェクトの推進	菜の花エコプロジェクトの全島展開（洲本市が先行している廃食用油によるBDF精製と菜の花・ひまわり栽培を全島に展開し、淡路島を「菜の花の島」に） ①洲本市：廃食用油回収量拡大、菜の花・ひまわり収量拡大、BDFプラント更新、BDF高濃度化検討等 ②南あわじ市：玉葱残渣を活用した土壌改良剤や飼料の生産（処理施設の管理運営） ③淡路市：廃食用油回収量拡大、バイオマス活用推進計画策定	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市	環境価値、低炭素・循環 経済的価値、新産業創造	○
（30）	環境市民ファンドの検討	①取組を持続的なものとするため、住民の「志」で環境未来島づくりを支える「環境市民ファンド」を創設 ＊太陽光発電事業をモデルに住民出資による「環境市民ファンド」の事業スキームを検討中	平成23～25年度	ひょうご環境創造協会、兵庫県、企業、金融機関等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用	○
（31）	太陽光発電の推進	地域のエネルギー自給率を高めるため、太陽光発電によるエネルギー生産を全島で推進。 ①事業者が島内で行う太陽光発電システム整備を支援（県補助：補助率1/3　補助上限5,000千円） ②公民館、防災センター、学校、病院、事業所等を対象に初期コストを低減させる新しい民間主導スキームでの太陽光発電導入を推進 ＊エナジーバンクジャパン㈱（大阪ガス㈱100%出資子会社）と連携	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、企業等	環境価値、低炭素 経済的価値、雇用・新産業創造	○
（32）	低炭素型交通システムの構築	持続可能な地域づくりの基礎となる低炭素型交通システムの構築に向けたモデル的な取組を実施 ①島内の事業者（タクシー等）を対象にEV購入補助を実施（県：1台当たり300千円×100台） ②EV充電設備を公共施設等に計画的に整備（急速充電1箇所　普通充電10箇所）《県地域ｸﾞﾘｰﾝﾆｭｰﾃﾞｨｰﾙ基金》 ③事業者によるEV充電設備の整備補助（県：補助率1/3　予算の範囲内で配分）《県地域ｸﾞﾘｰﾝﾆｭｰﾃﾞｨｰﾙ基金》 ④EVを核にした低炭素地域づくりを推進（コミュニティバスのEV化、デマンド化等による超高齢社会に対応した公共交通ネットワーク構築）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、企業等	環境価値、低炭素 社会的価値、安全安心 経済的価値、ツーリズム	○
（33）	エネルギー自給のむらづくり	島内各地区で地域特性に応じた再生可能エネルギーの活用策を検討・実施 ①エネルギー自給のむらづくりのモデル地区として、H22に小水力発電の導入可能性調査を行った鮎屋川地区（洲本市）において事業計画を検討。さらに1地区でエネルギー自給事業（太陽光発電、小水力発電等）の導入可能性調査を実施	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市等	環境価値、低炭素 社会的価値、安全安心 経済的価値、ツーリズム	○
〈食と農の持続〉						
（34）	食のブランド「淡路島」の推進	①地域団体商標を取得した淡路ビーフ、淡路島3年トラフグ、淡路島たまねぎをはじめ、多彩な地元農水産品の魅力発信と、生産力強化・販路拡大に向けた6次産業化による新商品開発等を展開 ＊生産者、加工・流通業者、観光業者が連携し『食のブランド「淡路島」推進協議会』を設立（H22.8）。 ②生産流通を革新を進めるため、野菜生産力強化のための地下水位制御技術の実証研究を進めるとともに、いちじくや花きの生産拡大やブランド化を推進	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、農協、漁協、食関連事業者等	経済的価値、農水産業振興・雇用・人材育成	
（35）	豊かな「里海」づくり	①水産資源を増大させるため、点在型岩礁性藻場を浅い海域に造成し、マコガレイ、メバル、マダイなど藻場を利用する魚種の生育環境を改善（現在整備中の丸山、阿万に加え、一宮地区の増殖場整備に着手） ②淡路周辺海域の広域漁場整備計画策定調査を実施 ＊南あわじ市で漁業の今後を考える「海のフォーラム」を開催（H23.2） ③漁業者と農業者が共同で「ため池・里海交流保全協議会」を結成し、ため池の腐葉土の活用、魚つき保安林の再生整備や山・川・里・海の循環を促進する社会基盤整備のあり方を検討 ＊淡路市でモデル地区（1地区）を指定し、モデル事業を実施中	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、漁協	経済的価値、農水産業振興 環境価値、生物多様性・生態系サービス	○

〈暮らしの持続〉						
＜文化＞						
(36)	木・土・紙・石の家づくり	①古民家を活用し、地域の自然素材を生かしたエコハウスのモデル整備を実施 ＊地元瓦産業を中心に整備手法や場所のプランを検討中	平成23～25年度	NPO、洲本市、南あわじ市、淡路市、兵庫県	社会的価値、健康・文化・交流 経済的価値、雇用・	○
(37)	あわじスタイルの景観づくり	①22年度に淡路島景観づくり懇話会で作成した景観づくりガイドを活用し、意識醸成、景観100選の選定、景観講座や景観交流広場の開設、古民家再生等を実施 ②淡路ならではの瓦屋根の家並みを再生するため、淡路島3市がそれぞれ淡路瓦を使用した住宅の新築・増改築に対する補助制度を実施	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、企業等	社会的価値、文化・交流 経済的価値、ツーリズム	
(38)	古事記編纂1300年記念事業	①古事記編纂から1300年となる2012（H24）年に向けて、古事記ゆかりの地である淡路島の魅力を広くPRするための事業を展開	平成23～25年度	兵庫県等	社会的価値、文化・交流 経済的価値、ツーリズ	
(39)	人形浄瑠璃街道の推進	①西宮、淡路、徳島の連携で取り組んできた「人形浄瑠璃街道」事業をH23に国民文化祭が開催される京都にも広げ、淡路人形浄瑠璃の魅力を全国に発信（西宮、淡路、徳島、京都での人形浄瑠璃公演と後継者団体の交流、淡路人形浄瑠璃体験教室（出前講座）の開催等）	平成23～25年度	兵庫県等	社会的価値、文化・交流 経済的価値、ツーリズム	
＜健康・福祉＞						
(40)	健康・スポーツの島づくり	①県立淡路佐野運動公園をはじめ島内の様々なスポーツ施設を活用し、スポーツや健康づくりのプログラムを展開するとともに、プロ野球、Jリーグ、大学等の合宿を誘致して「スポーツの島」を内外にPR ②五色県民健康村健康道場を核にした健康・癒しの拠点エリア整備の構想を検討 ＊現行の断食療法、低カロリー療法（野菜療法）、生活様式改善プログラムに加え、園芸療法、子どものアレルギーや発達障害に対応するプログラム等も提供し、淡路の豊かな自然を生かした健康回復拠点とする方向	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市	社会的価値、健康・文化・交流 経済的価値、ツーリズム	
(41)	サイクリングアイランド	①サイクリングの島を内外にPRするため、淡路島一周自転車イベント「淡路島ロングライド150」を開催 ＊淡路島一周150kmを時間を競わない「ロングライド」の大会としてH22.10に第1回を開催（参加者：1,488人）。H23は（財）JKA「競輪公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助金」申請済 ②淡路サイクリストロードとして、サイクリストにわかりやすい案内標識等を検討	平成23～25年度	兵庫県等	社会的価値、健康・文化・交流 経済的価値、ツーリズム	○
(42)	ターミナルケアの拠点づくり	①県看護協会を中心に高齢者等を対象にしたターミナルケアのグループホーム（共同住宅）の整備計画を検討 ＊県地域医療再生基金により、南あわじ市の廃校を活用した整備を検討（診療所の設置、デイサービスの併設等）	平成23～25年度	兵庫県看護協会、南あわじ市、兵庫県等	社会的価値、医療・福祉	
＜観光・ツーリズム＞						
(43)	丸ごと環境学習島	温暖な気候と変化に富んだ地形、自然環境を有しながら大都市と隣接する立地を生かし、都市部の子どもたちを受け入れる丸ごと環境学習島となることを目指す。農業体験、漁業体験等も組み込み、淡路の特性を生かした多彩な環境学習プログラムを展開	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、淡路島くにうみ協会（淡路島観光協会）	社会的価値、文化・交流 経済的価値、人材育成・雇用・ツーリズム	○
(44)	EVツーリズムの推進	①淡路島観光協会を中心に関係団体・企業の協働でEVシェアリング、レンタルEV、ホテル・旅館、観光施設等のEV割引制度等を導入 ＊淡路島観光協会、タクシー協会、レンタカー協会等との協議に向けて事業企画検討中 ②淡路島観光協会と携帯電話及びカーナビのコンテンツ事業者の連携でB級グルメを含む様々な「うまいもん」情報や淡路ならではのグリーンツーリズム情報を集約し、多言語で発信するアプリケーションを開発	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、淡路島くにうみ協会（淡路島観光協会）	社会的価値、文化・交流 経済的価値、雇用・ツーリズム	○
(45)	あわじスタイルのツーリズム	①国際ツーリズムの拠点化推進に向けて、着地型旅行商品の開発等、観光交流を積極的に推進 ＊淡路島が一体となった滞在型観光の実現を目指す「淡路島観光圏整備計画（国土交通大臣認定）」を推進中。H23は国交省「観光地域づくりプラットホーム支援事業」に申請予定 ②花と緑あふれる環境づくりと地域振興を目的として、観光施設等が連携して「淡路花祭」を春と秋に開催 ③「観光立島」実現に向けた新規提案の実現を支援（島内観光施設へのお香配布、隔週日曜日の「お香の日」化、園芸療法と食を核にした「グリーンケア」滞在モデルプランの開発等） ④線香生産日本一の「香りの島」の海外展開（お香職人「香司（コウシ）」による香り文化の海外発信・交流事業）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、淡路島くにうみ協会（淡路島観光協会）	社会的価値、文化・交流 経済的価値、人材育成・ツーリズム・新産業創造	○
＜産業・雇用＞						
(46)	地域資源を生かしたしごとづくり	①農水産業や瓦・線香等の地場産業の分野で、新たな視点からの新商品開発や販路拡大を目指した直売所（マルシェ）やアンテナショップの開設・運営などに取り組み、雇用の拡大と産業の活性化につなげる。 ＊厚労省「地域雇用創造推進事業」に申請予定（H23.7）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、農協、企業、NPO等	経済的価値、雇用・人材育成・新産業創造・農水産業振興・ツーリズム	○

（47）	企業等の立地の推進	①産業用地に加え、広大な土取り跡地、遊休農地、遊休施設も生かして「あわじ環境未来島構想」に賛同する企業等の立地を推進する。県企業庁の津名地区産業用地については、津名港の関税法に基づく開港に向けて調整を進める。（SOLAS条約に基づく港湾保安施設の整備や保税倉庫等の整備が必要になる見込み。） ＊津名地区エコ企業立地促進制度を実施中（「環境立島」の取組を産業面から先導するため、環境・グリーンエネルギー関連産業等の環境貢献型企業の立地を促進する企業誘致制度。要件を全て満たした場合、分譲価格の最大50％割引が可能となる。（H21～：県企業庁）） ＊土取り跡地については、関西空港はじめ大阪湾の大規模開発（埋め立て）に土砂を供給してきた島を大阪湾ベイエリアの自然再生と持続可能な地域モデルの先導エリアとして再生させるプロジェクトを検討（主な対象地：太平洋セメント土取り地（洲本市：249ha）、津名東生産団地（淡路市：148ha）、貴船用地（淡路市：110ha）） ②県産業集積条例による産業立地促進策の展開（不動産取得税の軽減、助成金の交付） ③淡路島3市における企業立地促進策の展開（助成金の交付、基盤整備等）	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、企業	社会的価値、文化・交流 経済的価値、雇用・人材育成・新産業創造・ツーリズム	○
＜その他＞						
（48）	廃校活用プロジェクト	島内の廃校を活用した地域活性化の拠点づくりに取り組む。 ＊現在6箇所の廃校の活用用途が未定。今後統廃合により20校程度の廃校が生じる見込み。これらの廃校について、地域特性に合った特色ある活用用途を見出し、地域活性化の拠点として再生させる必要がある。	平成23～25年度	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、企業	社会的価値、文化・交流 経済的価値、雇用・人材育成・新産業創造・ツーリズム	○

⑤　④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

【持続可能な移動交通システムの整備を核にした農山漁村型エネルギー自給地域モデルの構築（e-スマートビレッジ構想）】】

エネルギーの地産地消、脱化石燃料を推進するためコミュニティバスのEV化、小型EVの普及、手軽な充電の仕組みづくりに取り組むとともに、高齢者の移動を支えるきめ細かな公共交通ネットワークの構築に向けてコミュニティバスのデマンド化や市域を超えたコミュニティバス網の整備、地域自主運営の支援等に取り組むことにより、資源制約の時代に対応し、かつ、超高齢社会の到来にも対応する持続可能な低炭素型交通システムを整備する。

＜取組の視点＞

「乗りモノの進化」・・・一般車両に加え、淡路島に多い農機や漁船など、化石燃料を消費する全ての移動手段を対象にEV化を進めるとともに、既存の規格に適合しない小型車両等の走行実験などにも一部で取り組み、乗りモノ全体が進化した島づくりに取り組む。

「まちの進化」・・・急速あるいは普通充電設備の計画的整備と合わせて、いつでもどこでも充電できる「ユビキタス充電」の仕組みづくりに取り組むとともに、EV充電への再生可能エネルギーの活用を推進する。また、徒歩や自転車での移動を前提としたまちや道路の整備を進める。

「ヒトの進化」・・・車両の小型化やクルマから電動バイク、自転車への乗り換え、さらに徒歩での移動を前提としたきめ細かな公共交通網の整備と使い勝手を向上させるICTシステムの整備に取り組む。また、「持たない」ことを前提としたカーシェアリングの仕組みづくりにも取り組む。

＜取組の広がり＞

農水産業施設や遊休地を活用した太陽光発電等に取り組み、農水産業や農山漁村生活の低炭素化も合わせて推進する。また、全島一斉消灯、車に乗らない日の設定、打ち水作戦など環境率先の島民運動を様々な形で展開する。こうした取組によるCO2排出削減量や温度等の地域環境に対する変化を測定し、地球環境と地域環境の双方の視点から取組の効果を検証、その結果をフィードバックし、取組の質を高める。これにより、島民のライフスタイルのイノベーションに支えられた「環境未来島」を実現する。